



学校だより 12月号

文京区立第一中学校 令和6年12月18日(水)

暮れ

校長 田島佳子

暮れ：太陽が沈む頃、ある期間、季節が終わる頃、年の終わり、年末

今年の冬至は12月22日です。1年で一番太陽の力が弱くなる日です。翌日から徐々に太陽の力が復活してきます。一陽来復。冬至にはゆず湯。そして「運」がつくということで「ん」がつく食べ物を食べます。「なんきん(かぼちゃ)、れんこん、ぎんなん、にんじん、きんかん、うどん、かんとん」です。街を見渡すとクリスマスの飾りが華やかさを増してきています。子供達にとっては、どんなプレゼントがもらえるのか楽しみでもあります。年齢に応じてクリスマスの意味も価値も変わってきます。ポインセチアといういかにもクリスマスという植物があります。毎年この季節に登場します。若い人たちなりの過ごし方、家族での過ごし方などそれぞれだと思います。クリスマスが終わると、いわゆる年末といわれる季節です。大掃除をして、お正月の準備を行います。年賀状も準備します。SNSの普及で年賀状はずいぶんと減ってきています。私が20才から30才頃は、スキーが流行していました。今は見かけませんが、冬になると大きなスキー用のキャリーバックとスキーの板を肩に背負って雪国行きの新宿の深夜バス乗り場や新幹線乗り場に若者があふれていました。お正月をスキー場で迎える人も多かったです。我が家では大掃除を済ませておせち料理の準備もしました。正月飾りの一夜飾りは縁起が悪いと、30日に必ず飾っていました。

そして何より、暮れという言葉聞いて思い出すのは、もうずいぶんと前に天国へ行った父との思い出です。父は大正生まれです。(生徒の皆さんは、ピンとこないと思います。昭和の前の時代です。)私は都電の駅の熊野前というところで生まれ、梶原という駅の近くで中学校から結婚するまでを過ごしました。熊野前は、京浜東北線の田端に出ることができ、梶原は王子に出られます。そんな関係で上野は私の家から行きやすい場所でした。子供の頃は上野動物園や国立科学博物館、上野公園などによく行きました。大学生になると渋谷や青山、六本木などにも行きましたが、上野が好きでした。特にアメ横は、ごちゃごちゃしていて下町っぽさが残っていました。第二次世界大戦後の闇市の雰囲気も当時は残っていて、父はどんどん綺麗になっていく東京よりも昔の風情が残る上野が好きだったのか、私をよく連れて行ってくれました。特に毎年、なぜか12月30日になると「アメ横で買い物するぞ」と張り切って私をととても混んでいるアメ横に連れて行きました。買うものは決まっています。かにやいくら、数の子などの海産物とお菓子です。暮れのアメ横に響き渡るお店の人の声に酔いしれながら「明日は、大晦日」と思ったものです。

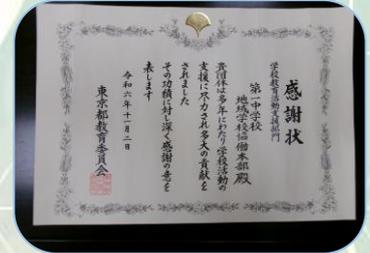


もうすぐ、あの季節がやってくる。

学校として表彰を二つ受けました。長年の功績に対していただいたものです。

1 東京消防庁 小石川消防署から長年の防火思想の普及と人命安全対策を積極的に推進し地域社会の安全安心に寄与したとして表彰していただきました。

2 第一中学校の地域学校協働本部の学校活動への支援が地域への大きな貢献となったと東京都から認められ、その功績に対して感謝の意を表する感謝状をいただきました。



1年 11月22日
いのちと心の授業



2年 英語 11月21日
インドネシアとの
オンライン授業



2年 12月11日
調理実習



2年 11月22日
ものづくり体験



2年 11月29日 高齢者疑似体験



ふれあい給食 11月29日
(地域の方を招いて)



5組 12月12日 お楽しみ会



初の試み
全校生徒会議 12月9日

